

2016.06.17：長崎市：平成 28 年第 3 回定例会（4 日目）

集団[フッ化物洗口](#)についてお尋ねをします。

今、長崎市で集団[フッ化物洗口](#)が進められていますが、虫歯予防に[フッ化物洗口](#)が効果があると言われていますが、本当にそうなんだろうかということを私は伺いたいんです。そこで、お尋ねしますが、長崎市内で 17 年以上[フッ化物洗口](#)を続けている小学校が 6 校、それから未実施校があるわけですが、その学校の平均虫歯本数と虫歯保有率を教えてください。

---

○市民健康部長（安田静馬君）

市が事業を開始した平成 25 年以前から独自に実施している 6 校を実施校として、またそれ以外を未実施校として比較をいたしました。検診を受けました全学年の児童の虫歯の本数の合計を児童数で割った 1 人平均齲蝕数につきましては、実施校、未実施校ともに 0.35 本と同じ値となっております。また、虫歯を持つ児童の数を全児童数で割った有病者率は、実施校が 17.93%、未実施校が 15.62%と、未実施校の方が少ない状況でございます。現時点では実施校も少ないことから有意な数字となっております。しかしながら、市内全体で[フッ化物洗口](#)を継続しています佐賀県におきましては、平成 12 年ごろから[フッ化物洗口](#)の普及に取り組み、当初 3 本を超えていた中学 1 年生における 1 人平均齲蝕数が、平成 27 年には 0.6 本となっております。同様に宮崎市においても平成 22 年から取り組み、1.16 本から 0.74 本に減少しており、効果が出ております。長崎市におきましても、今後取り組みを推進していくことで効果があるものと考えております。

[フッ化物洗口](#)はその時期の虫歯予防だけではなく、歯質の強化にもつながり、一生を通して虫歯になりにくい歯を育てることになります。希望する方々が、[フッ化物洗口](#)を実施できる環境整備を推進して、子どもたちの健康を支援していきたいと考えているところでございます。

---

○10 番（池田章子君） 長崎市の 17 年間やってきた学校の虫歯本数とやってない学校の虫歯本数は変わらないですよ。それが事実ですよ。このデータ数は 1,400 人くらいと 1 万 8,000 人くらいで十分データの数値として遜色ない数値だと思います。虫歯保有率については、実施してない学校の方が少ないというのも数字が示しているところです。さらに、今佐賀県のことをおっしゃったわけですが、確かに佐賀県は何年か前から[フッ化物洗口](#)を始めて虫歯が減ってます。そうおっしゃるんだろうと思ってたので、各都道府県がどうなってるのかを調べました。〔パネル表示〕これを見ていただきたいと思うのですが、このグラフは、縦軸が[フッ化物洗口](#)の実施率です。上に上がるほど[フッ化物洗口](#)の実施率は高い、横軸が虫歯の本数です。こっちが 0 本で右に行くほど虫歯の本数が多いということになります。それで、他各都道府県は、どれくらいの実施率、これは実施率については、日本学校歯科医師会と、日本むし歯予防フッ素推進会議のデータから取りました。それから人数については、文部科学省の統計の児童数から取りました。その洗口率と虫歯の本数です。これが佐賀県です。佐賀県は、洗口率がすごく高いんです。ところが、この同じ虫歯本数のところ、洗口率が低いところも同じ虫歯の本数のところがいっぱいあるんですよ。わかりますか。これ長崎県です。長崎県は、まだ[フッ化物洗口](#)あんまり進んでない、十何パーセント、虫歯本数が 1.1 本です。この 1.1 本のところも、洗口率が高かろうと低かろうというんな都道府県がある。洗口率が同じでも、虫歯が少ないところも、高いところもあるんで

す。これで本当にフッ化物洗口が虫歯予防に役立つということが実証されるならば、このグラフは、この分布は右下がりの斜線状にならなければおかしいはずなんです。フッ化物洗口実施率が高ければ、虫歯が少なくなる。フッ化物洗口の率が低ければ虫歯が多くなる、もちろんきれいにはなりません、大体そういうふうな分布が示さなければ、相関があるとは言えないはず。こういう各都道府県の分布状況を見ても、本当にフッ化物洗口に虫歯予防の効果があるのかと。これ、各都道府県の状況、ちゃんとしたところが出してる数値です。これを見ても、まだ市長はフッ化物洗口を長崎市で進めるべきだと考えられますか。〔パネル表示〕 ついでに言いますけれども、これは赤が6年間した子どもたちの実施校です。緑が未実施校です。これ長崎市の統計から取りました。1年生の時は変わりません、2年、3年、4年、5年、6年と変わっていきます。虫歯率も、虫歯の本数も、保有数も、どっちがいいのかと。この学年はこうだった、このほかの学年は違うかもしれませんが、私は少なくとも言えるのは、そんな効果があるとは言えないんじゃないかということです。これでも市長は続けられますか。昨年11月は、菊池市で事故が起こっています。これご存じだと思いますが、子どもたちが舌がピリピリするという訴えがあったと、通常の3倍の濃度でフッ化物洗口がつけられていたと。それをしたせいでピリピリした事故があったと、こういうヒューマンエラーも起こるんですよ、学校で。学校は医療行為しちゃいけないんですから。こういうことだってあり得ると。こんな中で、それでも効果がないかもしれない、あるというはっきりした優位性が見られないと私は思うんですけど、それでも市長はフッ化物洗口を続けられるかどうかお尋ねします。

---

○市民健康部長（安田静馬君）

フッ化物洗口につきましては、国際的にも優位性が認められております。そういった中で、一生にわたって虫歯になりにくい歯を育てることを考えた中で、この分には優位性があると考えているところでございます。

---

○10番（池田章子君） その優位性があるという証拠は、データはないと思うんですよ。優位性があるのは、うんと多い地域、2.7本以上のところに優位性があるとWHOは言ってるはず。日本みたいに1.1本とか1.0本のところはほとんど変わらないということを申し上げて質問を終わります。